

令和7年度 心の駅古賀舞の里ホーム 地域連携推進会議

日時	令和7年2月25日(水) 14:00～
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ①利用者代表・・・N.Y ②ご家族代表・・・N.U ③地域関係者・・・K.E ④地域関係者・・・F.M ⑤古賀市担当者・・・M.M ⑥舞の里ホーム職員・・・管理者 大熊、議事録 尾形
式次第	
<ul style="list-style-type: none"> ・施設概要 ・地域との連携 ・障害について ・利用者の権利擁護 	<p>(1) 挨拶・構成員の紹介</p> <p>(2) 地域連携推進会議の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入居者と地域の関係性作り ・地域の方への施設や利用者に関する理解の促進 ・施設やサービスの透明性や質の確保 ・利用者の権利擁護 <p>(3) 施設概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2002年にNPO法人「共生の里」を設立し、京築方面でGH事業を始め、2012年に社会福祉法人へ移管、北九州方面・下関方面にもエリアを拡大し、GH事業を中心に様々な事業を展開している。 ・心の駅古賀舞の里ホームは2024年4月に開所。定員7名で運営していたが2024年12月に定員を12名へ変更し、2026年4月には定員15名となる予定。将来的には定員を20名にしていきたいと考えている。 <p>(4) 現在の在籍者や障害について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在入居定員12名に対し11名が入居しており、1名入居調整している。主に精神障害のある利用者様が多く、中でも統合失調症と双極性障害の方が半々くらいに多い状況。治療やお薬調整にて病状安定している方を受け入れている。 ・年齢は30代から70代まで幅広い年齢層となっているが平均は53.9歳。 ・1～6までの支援区分があり、平均区分は1.8となっている。 ・主な入居経緯としては、近隣の福岡病院、同じ建物内にある無料低額宿泊所・日常生活支援住居施設である心の駅縁(つなぐ)からが主となっている。 ・従事者が常勤換算数において規定の人数を配置している。 ・精神保健福祉士や社会福祉士、看護師等の資格保有者が充実している。 ・これまでに退去者が1名いるが、元々別の地域で生活していたこともあり、そちらでの生活を希望されたため退去している。

	<p>(5) 苦情について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在のところ、1名の入居者の方から食事に関して量が少ない等の苦情はあるが、元々単身生活の時に大量に食べていたことから間食等を上手に促しながら話している。また、これまではお弁当等を確保して提供する形をとっていたが、厨房を活用し、一部手作りの食事を提供できるよう現在準備をしている。 ・地域からの不安の声や、苦情等に関しては真摯に向き合っていきたいと思っているため、何かあれば施設に一報いただきたい。また、地域住民の方との交流を図り、地域活動に貢献できればと考えている。
<ul style="list-style-type: none"> ・サービスの透明性 ・質の確保 	<p>(1) 運営状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GH内で行っている支援の説明。3食の食事提供、健康管理や金銭管理、余暇活動の支援、相談援助、作業所や職場との連絡調整や情報共有、日常生活に必要な援助、緊急時等の対応等。 <p>(2) 個別支援計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画についての説明と身体拘束について。身体拘束に関しては原則行わない。但し自傷他害や生命に関わる場合等は事前に説明と同意を得た上で切迫性・非代替性・一時性の3原則に基づき行うとしている。 <p>(3) 他訓練等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防訓練は年に2回実施、職員が居る時間や夜間想定等、様々なパターンを想定して行っている。 ・BCP訓練（感染・自然災害）も定期的に行っており、感染症の発生や拡大、自然災害や事故が起きても、事業を止めずに継続するための計画を立てマニュアルの見直しや訓練の実施をしている。 ・感染症対策に関しては法人内で定期的な研修を実施している。特に季節性のインフルエンザやノロウイルス、食中毒に関する内容は定期的実施している。 <p>(4) 実習生受け入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2024年に日本福祉教育専門学校より社会福祉士の実習生を1名、2025年には九州産業大学から1名、西南女学院大学より2名受け入れている。
<ul style="list-style-type: none"> ・質疑応答 ・その他 	<p>【 質疑応答・意見交換 】</p> <p>◎ GHでの過ごし方は？何か施設や職員に対する希望や要望はありますか？</p> <p>利用者代表 N.Y</p> <p>GHでは安心して過ごせている。作業所に行ったり、部屋に居る時はゆっくりすごしている。時々買い物にも行くし、散歩も時々している。希望…は特にはないですね。ご飯も足りているし楽しみにしています。</p>

◎ 開所当初は地域の方々から様々なご意見をいただきましたが、まもなく丸2年を迎えようとしています。疑問、質問、施設に対する要望等ありますか？

地域関係者 K.E

開所してもうすぐ丸2年になるが、まだ実態を掴めていないというのが正直な所ではありますね。入居の経緯としてある程度、症状が改善したため退院しており、その退院先としてGHに入居しているということですかね？平均区分が低いというのも、比較的軽度で自立をするためにGHへ入居しているという認識で良いのか？また、働いている方もいるのでしょうか？

➔入居の経緯、個々の病状や生活の背景も様々ですが、広く捉えた時に症状が落ち着いて、通院や服薬調整等にて生活できる方が入居しています。様々な生活課題を抱えた方が居るので個々に合った計画を一緒に立てて、自立することを目標にしている方もいれば、病院での生活が長い方は地域に出てGHで安定して生活することが最初の目標になったり、年齢的に高齢の方や身寄りがおらず単身生活が困難な方等もおられるので、全ての人に対して積極的に自立を図り単身生活を指すという訳ではなく、個々の状態等に併せて一緒に考えていっています。仕事に関しては障害者雇用等で働く方も中にはいますが、多いのは就労継続支援A型とB型の方、病院のデイケアを利用している方等が多い状況です。

地域関係者 F.M

建物の中をしっかりと見たのは初めてだったので質問ですが、居室での火気使用はどうなっているか？また、色々な方が居ると思いますが、入居されている方はどのようにして収入を得て、施設の費用というのはどのくらいかかるのでしょうか？

➔居室での火気使用は禁止としています。基本的に暖房もエアコンのみで、カーテンも防災カーテンにしてあります。コンセントからの発火を防ぐために一緒に掃除をする際に確認をしたり、喫煙可ではありますが決められた場所のみにしてあります。消防設備の点検や火災訓練・避難訓練等も定期的実施しています。

入居されている方の多くは年金や生活保護受給者又は両方該当する方が多くおり、それに作業所で得た工賃があればプラスされます。家賃は32,000円ですが、障害福祉サービスの家賃助成が10,000円あるので実質本人負担は22,000円で、それに水光熱費や食費が加算され、仕事や作業所に行く頻度や電気やガスの使用量にもよりますが6万～7万円台の負担が多い状況です。

◎ ご家族はよく面会に来られていますが、日々の施設の対応や、今回のような地域の方との交流で感じたこと、ご意見や要望等あればお願いします。

ご家族代表 N.U

家族としてこのような場に参加させてもらい、勉強になりました。施設の方には姉がいつもお世話になっています。面会にも時々来ていますが、これまでは施設の内側のことしか見てなかったけれども、今日の会議で地域の方の立場でのお話を聞く事が出来

たので良かったと思います。確かに不安に思われることもあると思いますが、それでも受け入れて下さっている地域の方に感謝ですし、姉も入院とは違い施設で自由に生活し、様々な支援を受けられているので、そのような施設や環境にも感謝の気持ちです。

◎ 福祉課の方からご意見や会議に参加しての感想、施設に対しての質問等あればお願いします。

古賀市担当者 M.M

いつもはサービスの申請や書類の手続き等で関わることもありましたが、初めてこのような会議に参加し、地域支援というものを考える上で勉強になりました。

【 今後の地域との連携 】

自治会活動への参加を開所当初から希望していたが、施設側も具体的な活動を把握出来ていない状況や、自治会側もどのように施設側と関わって良いのか分からない状況が継続していた。自治会として一施設や法人が自治会に参加するパターンが初めてなので、どのように取り扱って良いか分からずそのままになっていた部分もあったとのこと。

→自治会の方でも施設やその利用者が自治会活動へどのように参加すると良いか、提案し検討を行っていくとのこと。次年度は地域で行う清掃活動や除草作業等は事前に教えていただき、一緒に取り組んでいく機会を作っていけたらということや、施設の職員や時に利用者が少しずつ地域活動へ参加していくことで、地域の方の漠然とした不安解消に繋がれば良いと考えていること、時間は要すると思うが少しずつ距離を縮めていければ良いと考えているという考えを共有し意見交換を行うことができた。